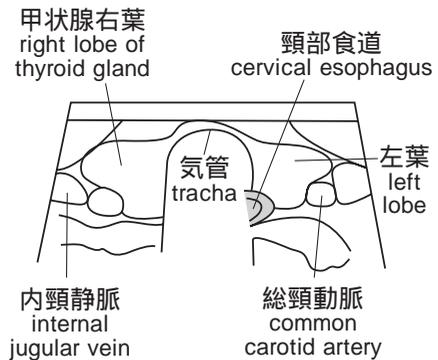
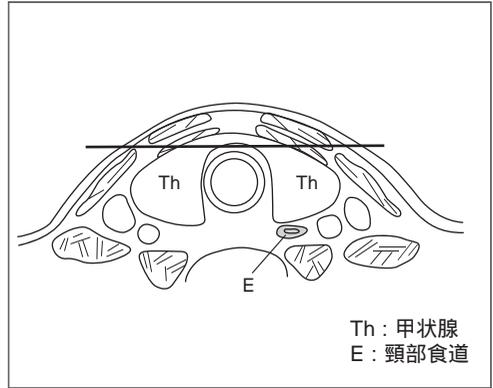


IV. 消化管エコーの基本走査と正常像

a. 頸部食道エコーの基本走査と正常像

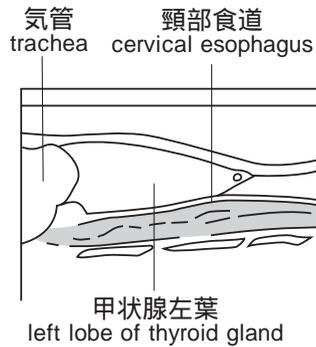
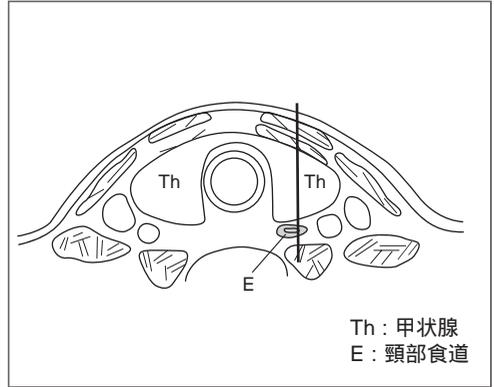
頸部食道エコーの基本走査は、甲状腺左葉の横断走査と縦断走査で観察する。この部位の検査では症状がある場合に限られるもので、ルーチン routine 検査では通常おこなわない。



目安 甲状腺左葉

表在用探触子（リニア型）を横に持ち、喉頭軟骨下縁に横断走査すると甲状腺左葉の背面に接し、頸部食道の短軸像が描出される。

- 頸部食道，甲状腺，頸部リンパ節について観察する。



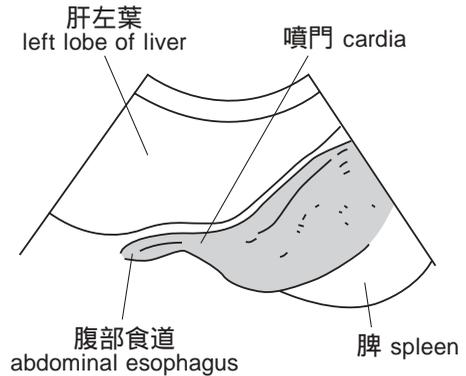
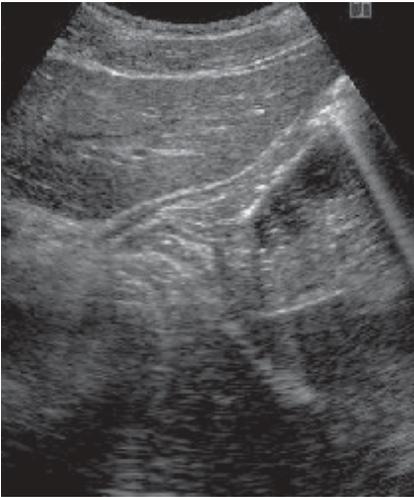
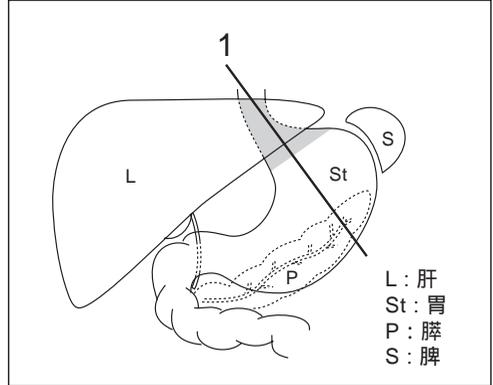
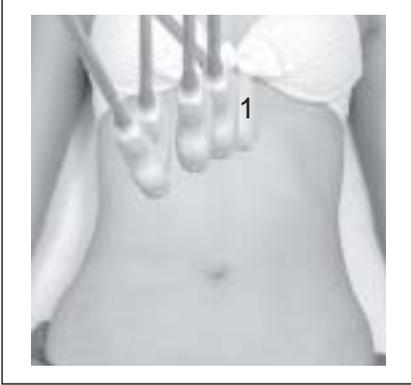
目安 甲状腺左葉

探触子を縦に持ち変え甲状腺左葉に縦断走査すると頸部食道の長軸像が描出される。頸部食道を確認するには唾液を飲み込んでもらうことで食道の認識が可能である。

- 頸部食道は内視鏡検査が困難な部位でもあり、体外からの超音波検査で容易に観察可能である。
- 頸部食道の長軸像，周囲リンパ節，甲状腺について方向を変え観察する。

b. 腹部食道・胃・十二指腸エコーの基本走査と正常像

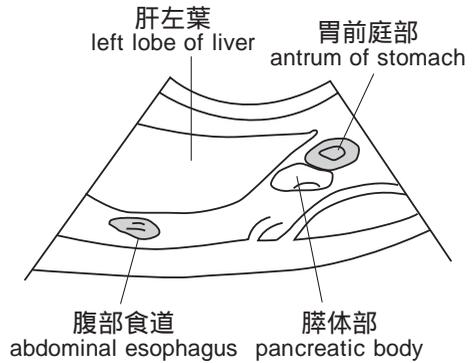
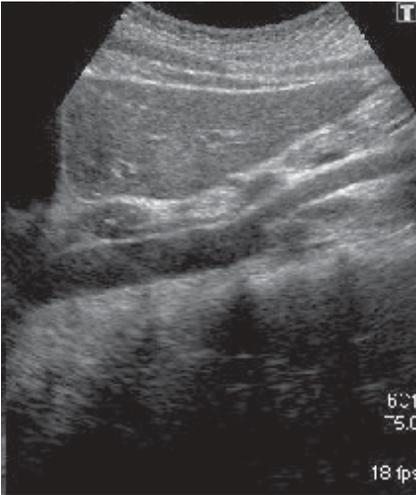
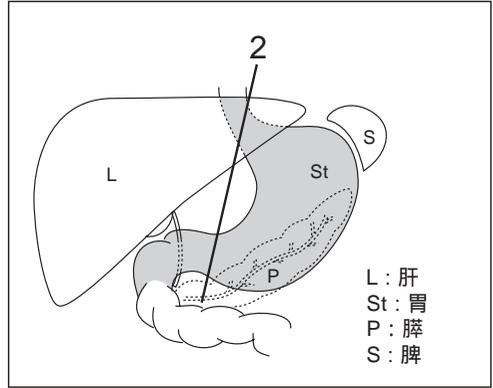
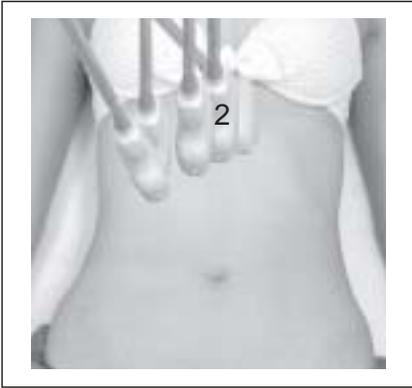
"の"の字2回走査（以下、本走査法）からみた腹部食道，胃，十二指腸の走査は 1・2・8・11・12・13番になる．腹部食道，胃，十二指腸球部の基本走査と正常像について示す．



1 目安 肝左葉下面・腹部食道

探触子を縦に持ち吸気の状態では心窩部斜走査すると腹部食道が描出される．この像をみながらさらに探触子を左肋骨弓下へ扇状走査していくと食道胃接合部，噴門，胃穹窿部から胃体上部が描出される．

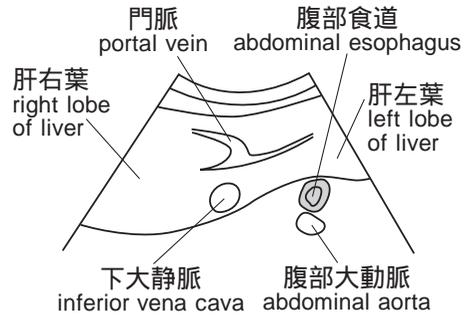
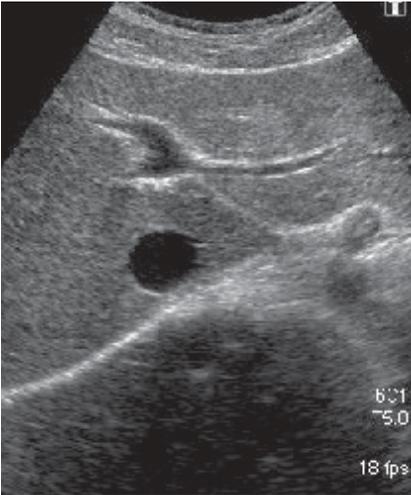
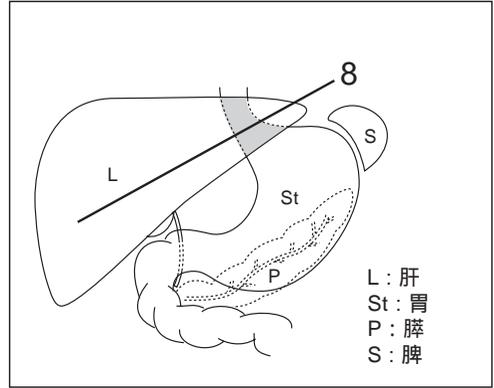
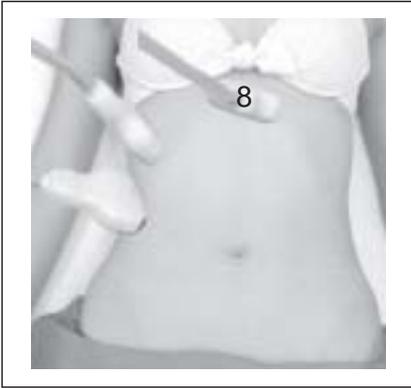
- 腹部食道，食道胃接合部，噴門，穹窿部について観察する．



2 目安 肝左葉下面・腹部大動脈

探触子を心窩部縦断走査すると肝左葉と腹部大動脈の間に腹部食道の短軸像がリング状に，肝下面には胃前庭部短軸像が楕円状に描出される．この像が胃の基本像になる．

- 腹部食道，胃前庭部について観察する．



8 目安 肝左葉の門脈枝

探触子を心窩部横断走査し吸気の状態では肝左葉を同定すると、腹部大動脈と肝左葉の間にリング状を示す腹部食道の短軸像が描出される。

- 腹部食道をみながら扇状走査し食道胃接合部、噴門、穹窿部について観察する。